



カリエカフェの大きな決断

およそ 30 名の路上の若者たちによって成り立つ協同組合カリエは、2016 年 11 月よりケソン市にある国立フィリピン大学内にて、パンやパスタ、飲み物を提供する「カリエカフェ」を運営しています。カリエとは、タガログ語で「路上」という意味を持つと同時に、「若者たちによる、路上生活からの脱却を目指した、安定した生計を立てる為の」カフェという意味があります。

この日、アイキャンとカリエのメンバーで今後の経営についての話し合いがもたれました。売り上げが昨年度と比較して伸びてはいるものの、依然として黒字には至っておらず、私たちは、このままでは、カフェの経営が危うくなってしまうと危機感を持っていました。話し合いでは、ここで一度立ち止まり、より抜本的に収支を見直していく方向性が決定し、具体的な論点は 2 つに絞られました。

1 つ目は、パン販売の可否についてです。カリエカフェの原点は、2010 年から始まった路上の子どもたちがパン作りを通じて、協調性や社会性を身に着ける活動に遡るため、パン作りはカリエにとってアイデンティティとも言えます。しかし、コスト面では、パンを製造するためにカフェとは別の場所を借りる必要があるために、家賃や光熱費等の支出が経営を圧迫していました。思い出もたくさんあり、苦渋の決断ではありますが、最終的には、まずは黒字を目指すという共通目標のもと、パン販売は一旦停止し、利益率の高いおにぎりの販売やデザートを中心に新たな商品を提供していくことが決まりました。

2 つ目は、カリエのメンバーが、まだ若く、経験も限られるために、ランチの時間帯のおかずの調理がうまくできないという課題についてです。こちらは、アイキャンの別の事業地であるパヤタスごみ処分場に住むお母さんたちにもカフェの運営に入ってもらえないか打診することになりました。まだ決定事項ではありませんが、両者が協力して、ともに生活を向上できれば理想だと思っています。

カリエ代表のジョアンさんは言います。「お金の管理について計算をしたり、方向性を考えるのは難しいことだし、責任も大きいです。」副代表ジョネルさんは「カリエを大きくしていき、将来カリエスタッフへより多くの給与を支払えるようになりたい。また、現在のカリエスタッフだけでなく、今でも路上で生活している若者へ、カリエを通して雇用を創出していきたい。」と意気込みを見せています。



ICAN マニラ事務所
May Ann Z.
Prudencio
～プロフィール～
ソーシャルワーカー。
大学卒業後、NGO や DSWD
(社会福祉開発庁) 等
での勤務を経て、2016
年 5 月より現職。

Project Site

〈特集〉

① マニラ



認定 NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

Close up

I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今月はこちらの2つをご紹介します。

①紛争の影響を受けた子どもたち 4月17日/オボック(ジブチ) 日本の遊びで子どもたちの心を癒す



「紛争で傷ついたイエメンの子どもたちの心の傷が少しでも癒えることができるように」と愛知県の生徒の方々から動画で紹介してもらった日本の遊びを「子どもの広場(CFS)」で活用します。参加者の子どもたちから、「初めての遊びで、楽しかった。教えてくれてありがとう」などの声が聞かれました。今後も引き続き、様々な遊び等を取り入れ、活動に活かしていきたいと思えます。

②紛争の影響を受けた子どもたち 4月19日/ピキット(フィリピン) 平和アドボカシー会議が開催されました



4月19日(木)に、教育省ソクサーション地方事務所の担当官、州事務所の担当官、校長、アイキャン等合計25名の関係者が集まり、「平和教育を通じた学校の変容」等について話し合いました。平和教育を導入した学校では、子どもたちの出席率の向上、退学率の減少、子どもの成績の向上等の変化が確認されており、このような変化にアイキャンが貢献しているとのコメントをいただきました。

II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今月はこちらの2つをご紹介します。

MY アイキャン事業 4月21日/愛知 フィリピンの路上の子どもたちを応援する街頭募金活動



10年前から毎月実施している名古屋栄での街頭募金に、19名のボランティアの方々が参加し、150名の方がご寄付をしてくださりました。この日は、2チームに分かれて、募金のお願いの呼びかけを行った結果、多くの方が、足を止めて下さり、アイキャンの活動についてご質問して下さいました。高校生のNさんからは、「これまでの街頭募金活動やアイキャンの活動の広がりを感じました」との感想がありました。

MY アイキャン事業 4月14日/愛知 WECANによるフェアトレード勉強会



アイキャンのボランティア団体、「WECAN」が自主イベントとして、フェアトレードに関する勉強会を行い、社会人6名が参加しました。実際に、アイキャンのフェアトレード商品を1つ1つ手に取りながら確認するとともに、パワーポイントを使用して生産者に関する知識を深めました。参加者からは、「今後もアイキャンと深い関りを持って、自分ができる活動を積極的に行っていきたい。」との感想を頂きました。

今月の Announce

スタディーツアー開催決定!

2018年度のフィリピンへのスタディーツアーの開催日程が決定いたしました。詳細はアイキャンのホームページをご覧ください。みなさまのご参加をお待ちしております。

日程: プランA 8月22日(水)~26日(日)、プランB:9月12日(水)~16日(日)

参加費用: 69,000円(会員等の方は10,000円割引) ※現地集合現地解散。



今月の ICAN 名人

マンスリーパートナー 鈴木修さん 「僕にも何かできることがきっとある」

僕には世界を変えることはできないでしょう。ですが、なにかできることはきっとあります。それが今回マンスリーサポートを始めたきっかけです。僕はいつからかは覚えていないくらい昔から、アイキャンのことは知っていて、たまに募金などに参加したりしていました。また、他の色々な団体にも寄付をしています。世界には様々な問題があり、NGOを必要としている人はたくさんいます。フィリピンやイエメンの状況というのは、慢性的な貧困や紛争から起こっています。ずっと昔から困難な状況にありますが、それが日本で大きく報じられることはありません。そんな日本人にはなじみの少ない問題だからこそ、「僕にできることがあるのではないか。」そういう思いから募金に参加してきました。そしてイエメンの紛争がずっと続いていて、その問題に対して、アイキャンが継続的な活動を行っているので、毎月の寄付を始めることにしました。

僕たちの力ではなにも変わらないのではないかな。そういう思いは常にあります。長い間寄付を続けていると、なおさらそう思います。けれど、だからこそでしょうか。「自分達にできることはないのか。できるとしたら何なのか。」そうしたことを考えてしまいます。毎月の寄付でなにが変わるのでしょうか。そう思うこともあるのですが、僕にできることはこれくらいしかありません。ですが、それでフィリピンやイエメンの子どもたちが喜んでくれたら嬉しいです。

◎鈴木さん、ありがとうございます!

インタビュー:4月8日

